玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 3
R2・4・20

分散登校実施
子どもが、子どもに
休校中のほっこりした光景

HP には毎日先生からのあたたかいメッセージが

臨時休校が５月７日まで延長！

新型コロナウィルス感染拡大を受け，全都道府県に緊急事態宣言が発令されました。それを受け，本市においても，当初は二十四日に学校再開を予定していましたが，五月八日（金）に再開が延長されました。それに伴い，生徒たちのストレスの解消，学習相談及び臨時休校中の生活や学習の再確認を行うために分散登校を市内の小中学校で実施することになりました。一十四日（金）は「三年生」，二十七日（月）は「一・二年生」が登校日となります。給食は通常通りとなります。持ち物等については，学校からのメール配信やホームページ等でご確認ください。

新型コロナウィルス感染拡大で暗いニュースばかりが続く毎日，普段だったら何気なく見過ごしてしまうことでも，ちょっとしたことで感動することもあります。先日，学区内の様子を車で見に行ったところ，道路脇である光景に遭遇しました。スクールジャージを着た中学生の男の子とおじいちゃんらしき男の人が草刈りをしていました。おじいちゃんが刈り払い機で刈った草を，後ろから中学生の男の子が草を集めてまとめている姿でした。その光景が，実に自然でほのぼのとしていました。

また，近くの田んぼを見ると，田植えの準備が始まりました。田んぼの中をトラクターで代かきしているお父さんの横を中学生らしき男の子が田んぼの中に長靴で入って肥料のようなものをまいていました。

この二つの光景に共通しているのは，実に自然な中学生の姿でした。誰かに言われて嫌々取り組んでいるというのではなく，休校中で，家の中にばかりいてストレスがたまっているので，少しでも身体を動かして家の役にたちたい，そんな思いが彼らから伝わってきました。自分で考えて，家のために貢献しようとする二人の姿。これまでの暗いニュースで落ち込んだ気分になっていましたが，なんかあたたかい気持ちになって元気になりました。

自分で考え，自分で判断し，行動する生徒，まさに今年本校が目指そうとしている姿であることを実感することができました。

今だから「本」を読もう！

全都道府県に緊急事態宣言が発令され、「不要不急の外出」は避けることになった今、自宅で過ごす時間がさらに多くなり、臨時休校の期間も延長されました。

こんな時にこそ「読書」をお勧めします。スマホで動画を見たり、ゲームをしたりしてちょっと疲れたら本を読んでみませんか？いい本に出会うと、これからのあなたの生き方に変化が起きるかもしれません。

ピッカピカの1年先生

一年三組担任
○○　○○　先生

今年から玉中でお世話になります。僕が先生になろうと思ったのは，スポーツが苦手な生徒や嫌いな生徒を少なくし，スポーツの楽しさを伝えたいと思いこの仕事に就こうと思いました。学生時代は，サッカー部に所属し，中・高・大学とサッカー一筋で頑張ってきました。プロの道も考えましたが，学校や子どもが好きだったので，教師の道を選びました。

玉造中の第一の印象は，「明るい・元気・自由」な学校ということです。会う生徒，会う生徒みんな元気で明るい。僕にはピッタリの学校だと思いました。そんな玉中生に「何でもいいから夢中になれ！」ということをこれからの授業や部活動で伝えていきたいと思います。

僕の趣味は，「身体を鍛えることと読書」です。週５日肩，腕，胸，背中，脚の順でローテーションしながら鍛えています。

僕の好きな言葉は「楽は苦の種，苦は楽の種」。自分に厳しくすることが成長につながる，普段から自分への戒めの言葉として使っています。これからよろしくお願いします。

二年一組担任
○○　○○　先生

私の玉中の第一印象は，「校舎が広くて，とてもきれい」「生徒も先生も明るくて活気がある」でした。玉造は初めてなので，いろいろと教えてください。

私が先生になろうと思ったのは，英語を通して海外の人とつながる楽しさや喜びを中学生に伝えたいと思ったからです。英語の苦手な人の気持ちも十分に理解しながら，少しでも英語の楽しさを味わえるように授業に取り組んでいきます。

私の中学時代はテニス部に明け暮れました。部のキャプテンとして悩んだこともたくさんありましたが，そのことが私を成長させてくれました。また，高校では小さい頃からピアノを弾いたりしていので，吹奏楽部に所属し，音楽三昧の毎日でした。また，趣味としては毎年夏になると高校野球の観戦に出かけるほど，高校野球が大好きです。（今年はどうなるか分かりませんが：）

私の好きな言葉は「苦しいときこそ笑顔で」です。笑顔は周りの人を明るくする，辛いときも苦しいときも前向きに考えて進んでいけるからです。

分からないことばかりですが，いつも笑顔を絶やさずに頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

「花育ては子育て」

家を新築した際に庭をつくった。何もないと寂しいのでホームセンターに行って花の苗を買い植え始めたのがきっかけだった。そのうち、種から育ててみよう、自分は大学の卒論で「種子」について研究したので軽い気持ちで始まった。

ところが始まってみると、なかなか奥が深い。種から芽を出させるのも、温度や水分の状態で変わってくる。また、同じ条件にしても種類によってだいぶ違う。芽を出させるだけでも何回も失敗した。しかし、芽を出させる以上に芽を出してからが難しい。光の量が少なければモヤシのようになってしまい、いきなり外に出すと、すぐにダメになってしまう。育苗床からの植え替えの時期も誤ると正常には育たない。種を植えてからは毎日毎日その様子を観察していかなくてはいけない。しかし、毎日毎日見ていると少しずつ変化している様子が分かる。そして、花をつけたときの喜びがたまらず、いつの間にかはまってしまった。

花を種から育てることは子育てにも似ている。毎日子どもの様子を観察する。時には優しく時には厳しく、そして少しずつ親離れをさせていく。そのタイミングが難しい。少しでも手を抜けば花は咲かない。子どもも手を抜けば手を抜いただけの結果となっていく。そして、何よりも花を育てるには「土」が大事だ。水はけが良く、栄養分を含んだ土だとどんどん大きくなる。花を育てる際の「土」にあたる部分が、子育ては「家庭」ではないか。もう少し早く「花づくり」を始めれば良かったと今後悔している。

（文責：小野口　吉政）